



4月17日(火)

## 主にあって喜びなさい

聖書朗読 詩篇 68:1~11, 18, 19

いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。

ピリピ 4:4

クリスチャンの信仰は、ときには元気づけが必要です。ダビデはこのように提案しています。『神に向かって歌い、御名をほめ歌え。雲に乗って来られる方のために道を備えよ。その御名は、主。その御前で、こおどりして喜べ。』神様の子どもが、ヤハウエを心からほめ歌うとき、その人の魂のもっとも崇高な感情を表現します。さらに、詩篇の作者は、喜びとともに神様をたたえる前に、私たちには必要な心構えや態度があると言います。それは義を愛し、悪を憎む態度です。私たちは、神様の摂理、そして愛に満ちた優しさと救いに感謝しなくてはなりません。

大学生のころ、献身的なクリスチャンの女性の隣に住んでいました。彼女は、ずっと献身的に尽くしてきた夫を亡くしましたが、彼女は悲しみを乗り越えるために、信仰を強くするために、そして天なるお父様のみことと自分の魂との一致を保つために、ヤハウエをほめ歌いました。彼女の讃美は、神様へのご信頼を明らかにあらわすものであり、神様は彼女が悲しみに耐えることをしっかりと支えてくださいます。そして彼女の讃美を聞くことは、私の信仰を高めてくれました。

讃美歌 284

祈り 私たちのお父様。私たちの心にあなたへの愛と感謝が常にありますように。そうすることが、喜びに満ちたあなたへの讃美をもたらしてくれます。

イエス様の御名において。アーメン。

ジェイムズ・B・キニー 1971年

4月18日(水)

## 永遠に生きる

聖書朗読 詩篇 118:1~9, 14~21

わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときでも、決して渴くことはありません。

ヨハネ 6:35

インディアナポリスの中心部に、ベンジャミン・ハリソンの像があります。彼はインディアナ州に移り住み、アメリカ合衆国の第23代大統領になりました。像の土台には、次のような言葉が刻まれています。「偉大なる人生は終わらずに続く」と。

詩篇の作者は『私は死ぬことなく、かえって生き』と記しています。詩篇の作者は自分自身のことではなく、自国の民のことを言っているのです。イスラエルの民は死に近づきましたが、今や危機は去りました。神様が彼らに救いをもたらし、イスラエルの民は、これからは「生きる」と感じました。

イエス様は、この救いという原理を、ヨハネ6:50~51において、私たち一人ひとりに当てはめてくださっています。『これは天から下って来たパンで、それを食べると死ぬことがないのです。わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きます。』

それは、まさにイエス様のことなのです。イエス様がなさったことや及ぼされた影響やみことばが続く以上のこと、つまりイエス様ご自身が永遠であるということです。そして、キリストとともに生きる者は、永遠のいのちとキリストのいのちの一部になります。彼らの魂は前進していきます。これこそが、すべてのクリスチャンの信仰の土台なのです。

讃美歌 第二編 95

祈り 天のお父様。自分が、あなたのために日々生きていること、そしていつの日にか、永遠にあなたとともに生きることをお祈りします。

イエス様の御名において。アーメン。

エド・モズビー 1963年

4月19日 (木)

## 感謝をささげる

聖書朗読 詩篇 69:30~36

あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。

I ペテロ 2:5

詩篇の作者は、神様と私たちとの関係の基本となる原理を強調しています。詩篇の作者は彼の時代においてそれを言い表し、そして、単なる動物のいけにえのささげものよりも、御名を歌でもってほめたたえ、神様への感謝の気持ちをささげることが、神様は望まれると明言しています。たとえ、そのいけにえが律法が要求するすべてのものに厳密に適合して選択されたとしてもです。

神様にお仕えする者の中には、交わりが礼拝の外見に一致していても、その中に自分が必要とする喜びと靈感を見つけることができない人もいます。というのは、彼らは心からの感謝の讃美の代わりに、口先だけの讃美をささげているからです。

たとえば、妻がこのように言うとき、どちらの妻が夫のことをより大切に思っていると思いますか。「誕生日だから、あなたに贈り物をしようと思うの」と「今日が誕生日だからというのではなく、あなたを愛しているから贈り物をします」。

ですから、神様の御前で私たちは「神様が、私たちが神様を愛することを教えてくださったことをとても感謝しているので、自分自身をおささげしようと思いません」であるべきなのです。

讃美歌 第二編 45

祈り 親愛なる主よ。自分の存在のすべてが、聖なる御名をたたえ、ご栄光を帰することができますように、私の人生をあなたにささげることが助けてください。

イエス様の御名において、アーメン。

LH. チャニング 1979年

4月20日 (金)

## 主の力強い腕に

聖書朗読 詩篇 91:1~91:16

主は羊飼いのように、その群れを飼ひ、御腕に子羊を引き寄せ、ふところに抱き、乳をのませる羊を優しく導く。  
イザヤ 40:11

私に末っ子がやっとな歩き出した頃、私たち夫妻は毎日子供と遊んでいました。お昼ご飯の後、夫が仕事へ戻る前に私たちは床に座ってその間を子供が行ったり来たりしていました。我が子は私たちのところまで歩いてくると、そのまま腕の間に身をあずけてきます。子どもが私たち両親のことを信頼し、受け止めてくれることを確信しているからこそ、そこには何の迷いもないのです。

こんな我が子と同じように私たちにとっても完璧に信頼できる父、主がいらないと思います。私たちが彼の腕に間に身を預ければ彼は絶対にそれを受け止めてくれるのです。

我が子は今は成長して、私たちのもとを離れ、私たち両親はもはや彼が倒れこんでくるのを受け止め、抱きしめることは無くなりました。しかしかつて私たちが我が子を愛し、優しく抱きしめていたように、いやそれ以上に、私たちの天にいる父は悩める時もどんな時も彼の傍にいて、いつも守ってくれているのです。よちよち歩きだった彼を私たちが見守り、愛したように、今は神様が我が子をいつでも見守ってくださっているのです。

み顔をあおげは、うれいは去りゆき、  
み腕にたよれば、ちからは湧きいず。  
(讃美歌 353 番 4 節の歌詞)

讃美歌 第二編 56

祈り 天にいます父なる神様。あなたが私たちのことをいつも見守り、倒れそうになった時には優しく腕を広げ、受け止めてくださることを感謝しています。あなたが守ってくれていることを覚え、日々私たちが強められますように。

イエス様の御名により。アーメン。

ジョアン・クレイトン 1983

4月21日(土)

## 神への祈りをささげる

聖書朗読 詩篇 72:1~20

ほむべきかな。神、主、イスラエルの神。ただ、主ひとり、奇しいわざを行う。  
詩篇 72:18

詩篇72編はおそらくダビデが晩年にしたと思われる、子を思う父の切実な祈りです。ダビデはソロモンが神の思いに沿った栄光を成し遂げるように神に祈りました。ソロモンが神に最大の名誉と称賛を抱いている間は祝福が彼に与えられるように願ったのです。

クリスチャンにとって祈りは決して無視することの出来ないものです。ダビデやイエス様もその例外ではなく、熱心な祈りを神にささげています。伝道者としての活動の間も、イエス様はずっと祈りを捧げていました。ルカもイエス様は祈りを絶やすことがないとその書に記しています。説教を始める時、宣教で疲れたとき、難しい決定をするとき、困難に直面したとき、うれしいとき、そして他の人のことを覚える時、などなどイエス様はいろいろな時に祈っていました。もしも私たちがこのようになれば、その人生はもっと素晴らしいものになるでしょう。

イエス様はまた、祈りについて二つのとても大事なことを教えてくださいます。神の答えが与えられるまで辛抱強く待つことと、私たちの役目をしっかり果たすことです。二つ目はどういう意味でしょうか。これは言い換えると、ただ祈るだけで満足するのではなく、私たち自身もその答えが与えられるように努力する必要があるということです。

讃美歌 312

祈り 力強いお父様。この祈りを聴いてください。私たちがあなたのために何が出来るか教えてください。その答えが与えられるまで私たちが待てるようにお導きください。私たちがあなたの為に働けるように強めてください。

イエス様の御名により。アーメン。

ケン・ジョーンズ 1987

4月22日(日)

## 神は知っている

聖書朗読 詩篇 139:1~12

主の御目はどこにでもあり、悪人と善人を見張っている。  
箴言 15:3

すべてを神様が知っておられるというのはなんとすばらしいことなのでしょう。私たちは神様の視界から消えることもなければ、外れることもないのです。朝起きて、考え、話して、クリスチャンとして行動し、たまにそれにはふさわしくない行動をして、そして夜眠るまで神様は一日中ずっと見守ってくださっているのです。

神様はすべてを見ておられ、知っておられるのですから、私たちはどのような行動をするべきでしょうか。ペテロは私たちが神様に呼ばれ、選ばれていることを常に心がけるべきだと話しています。また常に潔白であるようにとも説いています。ヨハネは悪ではなく善に従う様に話しています。この善に従うということが重要なことです。

いつの日か私たちは神様の前で自分自身のことを述べ、裁かれる日が来ます。『神は、善であれ悪であれ、すべての隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからだ。』(伝道者の書 12:14)。だからこそ、神様が私たちに救い主について知る時間、主に従う時間を与えてくださったことに感謝しましょう。

讃美歌 271

祈り 父よ。いつもともにごゆるすことに感謝いたします。私たちが良き、正しい行いが出来るように導いてください。そしてあなたの意思に従うことができますように。

イエス様の御名により。アーメン。

ジェリー・コルクァイト・ワードルーフ 1978